

定期作況報告

令和元年7月
(7月20日現在)



北見農業試験場

1. 気象経過

6月下旬：最高気温、最低気温、平均気温とも平年並みであった。降水量は平年より少なく（平年比11%）、日照時間は平年よりやや多かった（平年比129%）。

7月上旬：最高気温は平年より極めて低く、最低気温は平年よりも低く、平均気温は平年より低かった。降水量は平年よりも少なく（平年比28%）、日照時間は平年並であった（平年比88%）。

7月中旬：最高気温は平年よりやや低く、最低気温は高く、平均気温は平年並みであった。降水量は少なく（平年比60%）、日照時間はやや少なかった（平年比73%）。

以上のことから、この1か月間（6月下旬～7月中旬）は、平均気温はやや低く、降水量は少なく、日照時間は平年並であった。

気象表

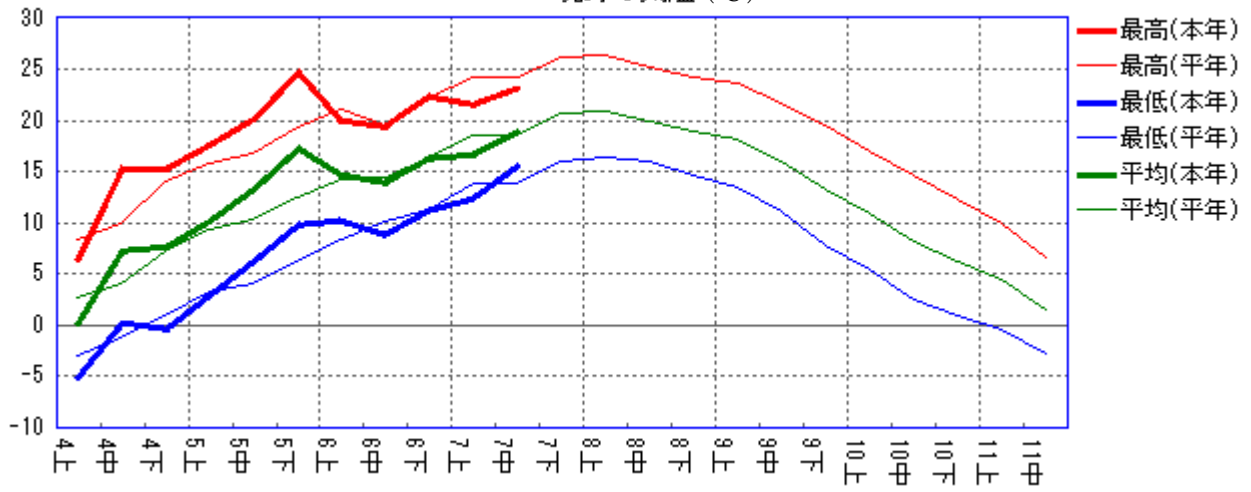
月旬	平均気温(°C)			最高気温(°C)			最低気温(°C)		
	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較
6月下旬	16.3	16.4	-0.1	22.3	22.3	0.0	11.2	11.3	-0.1
7月上旬	16.6	18.5	-1.9	21.6	24.2	-2.6	12.3	13.9	-1.6
7月中旬	18.7	18.6	0.1	23.1	24.2	-1.1	15.4	13.8	1.6

月旬	降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較
6月下旬	3.5	30.5	-27.0	69.4	54.0	15.4
7月上旬	12.5	44.9	-32.4	41.4	46.8	-5.4
7月中旬	25.5	42.6	-17.1	38.2	52.5	-14.3

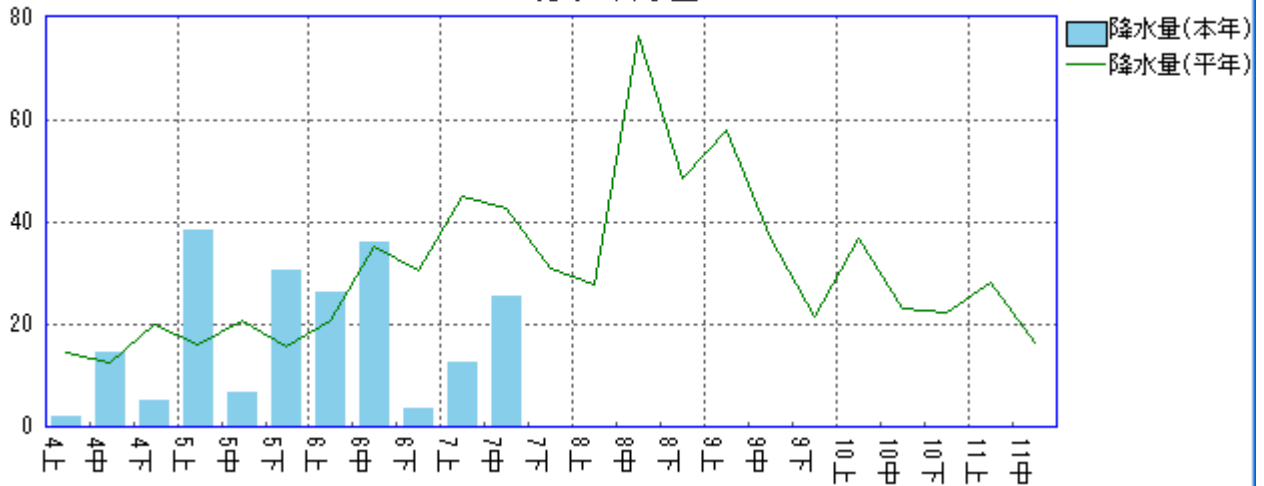
注) 観測値は置戸町境野のアメダスデータである。

10年平均は前10か年間の平均値である。

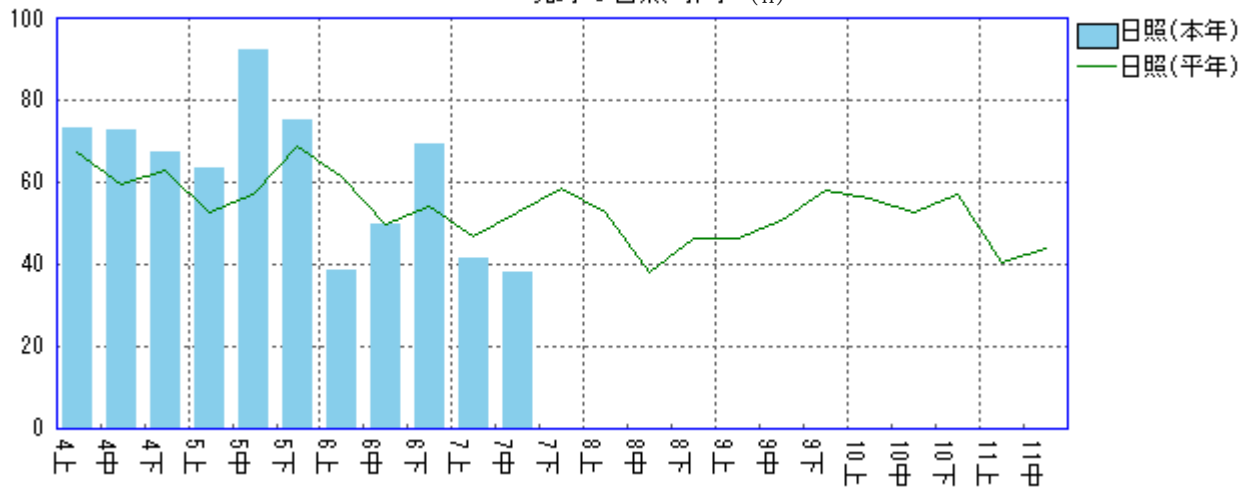
境野の気温 (°C)



境野の降水量 (mm)



境野の日照時間 (h)



2. 当場の作況

注) 本作況報告は北海道立総合研究機構北見農業試験場の平年値に対する生育良否に基づいたものであり、オホーツク管内全体を代表するものではありません。

1) 秋まき小麦 作 況：良

事 由：6月下旬および7月中旬の平均気温は平年並で、7月上旬は低温であったことから登熟は緩慢に進んでいる。稈長は平年よりやや短い、穂長は平年並で穂数が多い。

以上のことから、目下の作況は「良」である。

調査項目	きたほなみ		
	本年	平年	比較
稈長(cm) (7月20日)	78	83	△5
穂長(cm) (7月20日)	8.1	8.6	△0.5
穂数(本/m ²) (7月20日)	843	681	162

注) 平年値は前7か年中、平成27年(最豊)、30年(最凶)を除く5か年の平均。

2) 春まき小麦 作 況：平年並

事 由：稈長は平年より短い、穂長は平年並で、穂数は平年並からやや多い。但し、7月中旬の降雨により「春よ恋」でわずかに倒伏が発生している。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	春よ恋			はるきらり		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
稈長(cm) (7月20日)	89	97	△8	87	94	△7
穂長(cm) (7月20日)	8.3	8.2	0.1	7.7	7.7	0.0
穂数(本/m ²) (7月20日)	699	616	83	655	638	17

注) 平年値は前7か年中、平成27年(最豊)、29年(最凶)を除く5か年の平均。

3) とうもろこし (サイレージ用) 作 況 : 良

事 由 : この1ヶ月間は平均気温がやや低かったものの、日照時間は平年並であり、生育が鈍化することは無かった。草丈、葉数ともに平年を上回っている。

以上のことから、目下の作況は「良」である。

調査項目	チベリウス		
	本年	平年	比較
草丈(cm) (7月20日)	173.1	165.4	7.7
葉数(枚) (7月20日)	13.9	12.5	1.4

注) 平年値は前7か年中、平成29年(最豊)、30年(最凶)を除く5か年の平均。

4) 大 豆 作 況 : やや良

事 由 : 開花始は7月17日で、平年より3日早かった。主茎長、本葉数、分枝数とも平年やや上回って経過している。

以上のことから、目下の作況は「やや良」である。

調査項目	ユキホマレ		
	本年	平年	比較
開花始 (月.日)	7.17	7.20	△ 3
主茎長(cm) (7月20日)	54.3	48.4	5.9
本葉数(枚) (7月20日)	8.1	6.9	1.2
分枝数(本/株) (7月20日)	5.4	4.2	1.2

注) 平年値は前7か年中、平成26年(最豊)、28年(最凶)を除く5か年の平均。

5) 小豆

作況：やや良

事由：7月20日現在、開花始には至っていない。「サホロショウズ」「エリモショウズ」とも、主茎長は平年並だが、本葉数、分枝数は平年をやや上回っている。

以上のことから、目下の作況は「やや良」である。

調査項目	サホロショウズ			エリモショウズ			きたろまん(参考)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
開花始 (月.日)	—	7.24	—	—	7.26	—	—	7.25	—
主茎長(cm) (7月20日)	15.7	15.0	0.7	15.7	15.9	△ 0.2	15.3	16.6	△ 1.3
本葉数(枚) (7月20日)	6.9	6.0	0.9	7.3	6.0	1.3	7.3	6.1	1.2
分枝数(本/株) (7月20日)	2.3	1.4	0.9	2.7	1.4	1.3	2.6	1.3	1.3

注) 平年値は前7か年中、平成26年(最豊)、28年(最凶)を除く5か年の平均。
ただし、きたろまん(参考)は、前5か年(平成26~30年)の平均。

6) 菜豆

作況：平年並

事由：開花始は7月6日で、平年よりも4日早かった。草丈は平年をやや下回っているが、本葉数は平年並で、分枝数は平年をやや上回っている。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	大正金時		
	本年	平年	比較
開花始 (月.日)	7.6	7.10	△ 4
草丈(cm) (7月20日)	35.7	37.8	△ 2.1
本葉数(枚) (7月20日)	3.9	3.8	0.1
分枝数(本/株) (7月20日)	5.9	5.0	0.9

注) 平年値は前7か年中、平成26年(最豊)、28年(最凶)を除く5か年の平均。

7) ばれいしょ 作 況：やや良

事 由：前報に引き続き、地上部生育は平年より早く、開花始は2～3日早かった。7月上旬以降の低温により「男爵薯」、「コナフブキ」では既に地上部の伸長が停止し、7月20日時点の「男爵薯」、「コナフブキ」の茎長は4～7cm短い。但し両品種ともに塊茎肥大の開始は早まっていると予想される。また、「コナユタカ」の茎長は前報と同様に4cm長い。

以上のことから、目下の作況は「やや良」である。

調査項目	男爵薯			コナフブキ			コナユタカ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
開花始 (月.日)	6.27	6.29	△2	6.26	6.29	△3	7.2	7.5	△3
茎長(cm) (7月20日)	43	50	△7	67	71	△4	73	69	4
茎数(本/株) (7月20日)	4.2	4.1	0.1	3.4	3.5	△0.1	2.8	2.8	0

注) 平年値は前7か年中、平成24年(最豊)、30年(最凶)を除く5か年の平均。

8) てんさい 作 況：平年並

事 由：移植栽培では、5月20日前後の強風とその後の少雨の影響で、生育は全般に平年をやや下回っている。一方、出芽が平年より遅れた直播栽培では強風と少雨の影響は少なく、生育は順調で、全体的に平年を上回っている。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	移植						直播		
	リッカ			アマホマレ			リッカ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
草丈(cm) (7月20日)	49.5	53.1	△ 3.6	48.0	52.8	△ 4.8	48.2	47.4	0.8
生葉数(枚) (7月20日)	18.1	18.2	△ 0.1	19.3	20.3	△ 1.0	16.9	15.3	1.6
茎葉重 (g/個体) (7月20日)	441	520	△ 79	472	562	△ 90	374	333	41
根重 (g/個体) (7月20日)	235	268	△ 33	241	288	△ 47	148	108	40
根周(cm) (7月20日)	21.2	22.3	△ 1.1	21.2	23.3	△ 2.1	17.8	16.1	1.7

注1) 平年値は前7か年中、平成26年(最豊)、28年(最凶)を除く5か年の平均。

9) 牧草 (チモシー)

作況：不良

事由：1番草の乾物収量は平年比77%と少なかった（前報）。2番草再生時の欠株は認められなかったが、6月下旬の降水量が平年より少なく、草丈は平年よりやや低い。以上のことから、目下の作況は「不良」である。

調査項目	なつちから		
	本年	平年	比較
被度 (%) 2番草再生時(7/5)	100	100	0
草丈 (cm) 2番草再生時(7/5)	33	38	△ 5

注) 平年値は前7か年中、平成24年（最豊）、27年（最凶）を除く5か年の平均。

10) たまねぎ

作況：良

事由：7月上旬は、平均気温は低めに推移したものの、両品種とも球肥大期は平年より4日早く、球肥大は順調である。両品種ともに草丈は概ね平年並であるものの、生葉数は平年をやや上回り、球生重は上回っている。

以上のことから、目下の作況は「良」である。

調査項目	オホーツク222			北もみじ2000		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
球肥大期 (月.日)	7.8	7.12	△4	7.14	7.18	△4
草丈(cm) (7月20日)	84.6	86.4	△1.8	89.4	85.2	4.2
生葉数(枚) (7月20日)	10.4	9.4	1.0	10.5	9.3	1.2
葉鞘径(mm) (7月20日)	22.0	22.1	△0.1	22.8	21.1	1.7
葉身生重(g) (7月20日)	158.2	165.5	△7.3	173.2	137.1	36.1
球生重(g) (7月20日)	122.8	98.1	24.7	86.8	61.8	25.0

注) 平年値は前7か年中、平成25年（最凶）、28年（最豊）を除く5か年の平均。